

当学会会告（2021年12月発出）に関連した論文掲載のご報告

当学会は、2021年12月24日に会告「腹腔鏡の子宮摘出術と子宮筋腫核出術の電動モルセレータ使用と組織回収バッグの使用について」を発出しており、米国食品医薬品局(FDA)が2014年4月、2020年12月と2度に渡り出した通知に関し、PMDAと連携して対処をして参りました。われわれは本学会に所属する会員所属施設に対し、電動モルセレータ使用状況、組織回収バッグの使用状況について2度に渡りアンケートをおこない、本邦でのこれら器具の使用実態を明らかにしましたが、今回その内容に関する論文が *J Obstet Gynaecol Res* 誌 (<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/36345574/>) に掲載されました。

FDAによると、想定していなかった子宮肉腫の発見率は0.28%であったのに対し、日本では、想定していなかった子宮肉腫の発見率は0.05%程度と極めて低く、適切な術前検査がおこなわれている実態が明らかになりましたが、完璧な術前での悪性疾患診断の難しさが浮き彫りにもなっております。

当学会は、今後も引き続き、電動モルセレータの使用は想定していなかったがんの播種を促進し長期予後に悪影響を及ぼしうること、FDAの2020年通知「50歳以上または閉経後症例への使用は禁忌であること、電動モルセレータを使用する際には必ず回収バッグを使用すること」を患者に情報提供することを推奨致します。

本学会会員におかれましては、これら留意点を改めてご確認いただき、適切な電動モルセレータの使用と組織回収バッグの使用を行う様お願いいたします。

令和4年11月9日

一般社団法人 日本産科婦人科内視鏡学会

理事長 大須賀 穰